

第71回広島大会に参加して（「素直な疑問」）

二日目の全体会の会場前で、散歩中の市民に「今日はいったい何の集まり？」と聞かれたが、全国から7000人余の参加者を集める組織力はさすがPTAとの思いを新たにした。

一日目は特別第2分科会に参加した。「教育の情報化の推進」とのテーマで、これからの情報化社会に生きる子どもたちに必要なものは何か、答えは「情報を上手に活用する力+情報のリスクに対応する力」ということで、ポイントは①様々なトラブルへの自覚を促す、②リスクをグラデーションで考えさせる（どこまでが安全）、③時間管理に関する自立の力を育てる（タイムマネジメントの力を育てる）とのことであった。当を得た説明であったが、このような力を付けさせるには「家庭の力」も相当に必要であり、全ての家庭が対応できるわけではない、その場合、PTAはどちらの方向を向くのだろうか、と素直な疑問を持った。二日目の全体会記念講演は、トリセツで有名な黒川伊保子氏。「逃げ癖を意欲に変える脳科学」とのこと、同僚や家族が何か失敗をした際に、責めるのではなく「私も〇〇してあげればよかった」と言うべきらしい。なるほど参考にはなったが、果たしてそれで「意欲」に変わるだろうか、「私」の方にも相当の辛抱強さがあるのではと、これも素直な疑問を持った。

運営面では、一参加者としてみる限り特に問題はなかったし、広島市の街、人々のホスピタリティ、観光地としての魅力にも素晴らしいものがあった。来年の川崎大会につながる意義ある大会になったと思う。

（事務局長 沢村 功）